

第4章 参加と協働による環境保全への取り組み

第1節 環境教育・環境学習の充実

1 環境教育・環境学習の推進

環境保全に対する県民意識を高め、環境保全活動への参加を促していくためには、長期的な視野に立った環境教育や環境学習の推進が必要です。本県では、県民・事業者・行政が連携・協働して環境学習を総合的・体系的に進めるため、「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」を平成17年2月に策定しました。この方針に基づき、平成20年度においては次の施策を実施しました。

(1) 環境学習実践モデル事業

「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」の方針を踏まえ、平成19年3月に作成された「とくしま環境学習プログラム」を活用したモデル的な取り組みに対し、支援を行いました。

県内の4団体が「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」で示された本県で重点的に取り組むべき分野である「ごみ」「生きもの」「水環境」「太陽（エネルギー・地球温暖化）」をテーマに「とくしま環境学習プログラム」を活用した環境学習を行い、「とくしま環境学習フォーラム」（平成21年3月開催）でその成果を発表しました。

(2) 「学校版環境ISO」認証取得の推進

「学校版環境ISO」とは、ISO14001などの環境規格を参考に、小・中・高・特別支援学校の児童生徒、教職員が自ら目標を立て、成果をチェックする方法で、学校全体でごみの減量やリサイクル、省エネルギーなどに継続的に取り組む活動を推進しています。

実施校では、児童生徒、教職員がそれぞれの実態に応じた目標を考え、数値的な指標を設定するなど特色ある活動を展開します。認定されると認定証（3年間有効）が交付されます。

平成20年度末には、小・中学校、高等学校、特別支援学校を含めて140校が認定を受けて活動をしています。

表2-4-1 平成20年度「学校版環境ISO」認定校

校 種	市 町 村 名	学 校 名
小 学 校 (2 3 校)	徳 島 市	内 川 町 小 学 校
		川 内 北 小 学 校
		川 内 南 小 学 校
		北 井 上 小 学 校
		千 松 小 学 校
	鳴 門 市	林 崎 小 学 校
	小 松 島 市	小 松 島 小 学 校
		坂 野 小 学 校
	阿 南 市	椿 泊 小 学 校
		吉 野 川 市
	阿 波 市	土 成 小 学 校
		久 勝 小 学 校
	美 馬 市	江 原 北 小 学 校
		岩 倉 小 学 校
三 好 市	王 地 小 学 校	
	芝 生 小 学 校	
		政 友 小 学 校

	勝 浦 町	生 比 奈 小 学 校
	石 井 町	石 井 小 学 校 高 川 原 小 学 校
	松 茂 町	喜 来 小 学 校
	上 板 町	高 志 小 学 校
中 学 校 (8 校)	徳 島 市	城 東 中 学 校
	阿 南 市	伊 島 中 学 校 椿 中 学 校
	三 好 市	三 野 中 学 校
	石 井 町	石 井 中 学 校
	北 島 町	北 島 中 学 校
	県 立	城 川 ノ 内 中 学 校 島 中 学 校
高等学校・特別支援学校 (2 3 校)	県 立	城 東 高 等 学 校
		城 北 高 等 学 校
		城 ノ 内 高 等 学 校
		城 西 高 等 学 校
		城 西 高 等 学 校 神 山 分 校
		徳 島 工 業 高 等 学 校
		富 岡 西 高 等 学 校
		阿 南 工 業 高 等 学 校
		那 賀 高 等 学 校
		鳴 門 高 等 学 校
		板 野 高 等 学 校
		鴨 島 商 業 高 等 学 校
		川 島 高 等 学 校
		阿 波 高 等 学 校
		阿 波 農 業 高 等 学 校
		穴 吹 高 等 学 校
		美 馬 商 業 高 等 学 校
		池 田 高 等 学 校 (全)
		池 田 高 等 学 校 (定)
		三 好 高 等 学 校
盲 学 校		
国 府 養 護 学 校		
国 府 養 護 学 校 池 田 分 校		

徳島工業高等学校は、平成20年度末で閉校となりました。

(3) エコリーダー養成講座

学校版環境ISOの認証取得を目指す学校の環境教育担当の教員などに対して、第1回目は「環境教育と学校版ISO」のテーマで環境教育の目的・学校版環境ISO・とくしま環境学習プログラムについて講話を行いました。第2回目は「生活とエネルギー」をテーマとして講話を行いました。

(4) 環境教育講座の開催

環境教育の充実に向けて、教員の指導力の向上を図るため、県教育委員会では平成5年度から、環境教育講座を開催し、実践事例の発表や環境教育の内容についての研修などを実施しています。

平成20年度は、県内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教員を対象に、徳島県立総合教育センターにおいて「環境学習プログラムを取り入れた環境教育」についての研修を行いました。

(5) 環境首都あどぶと・エコスクール

互いに連携・協働しながら主体的に行動する人材の育成のため、道路や河川で行われているアドプト（養子縁組）方式を学校の環境学習活動に適用し、「地域の人づくりを地域の企業等が支える」という考えの下、事業者・民間団体が「里親」となり、「養子」である学校の環境学習活動を支援する制度「環境首都 あどぶと・エコスクール」を平成19年度に創設しました。平成20年度は中学校1校と地域の事業者3社とが養子縁組の協定を結び、事業者からの人材派遣や教材費等の支援により、地域に根ざした環境学習を効果的に実施することができました。

(6) こどもエコクラブ事業

環境省が進める「こどもエコクラブ事業」は小中学生なら誰でも参加できる環境活動です。参加した子どもたちは、自然観察や調査、リサイクル活動など、地域の中で身近にできる環境活動に自由に取り組みます。平成20年度には県内で35クラブ3,383人が組織されて、各地域で活動を展開しました。

表2-4-2 平成20年度 こどもエコクラブ登録数

市町村名	クラブ数	メンバー人数	サポーター人数
徳島市	21	1,147	377
鳴門市	1	160	17
阿南市	6	313	121
吉野川市	2	182	56
阿波市	1	10	2
松茂町	3	1,529	62
牟岐町	1	42	4
合計	35	3,383	639

「こどもエコクラブ」は、2人以上の仲間（メンバー）と、活動を支える1人以上の大人（サポーター）で構成されます。サポーターは、子どもたちの自主的な活動をあたたかくサポートする高校生以上の方で、高校生はメンバーとしても、サポーターとしても登録することができます。

(7) 佐那河内いきものふれあいの里の自然環境学習

佐那河内いきものふれあいの里は、指定管理者である佐那河内村が3名の自然観察指導員による自然環境学習を実施しています。その内容としては、野鳥の観察会、低山ハイキング、そばづくり等の体験、希少動植物の観察など様々なメニューがあります。また、小中学校や民間団体などに対する環境学習も行っております。

表2-4-3 自然観察会等の実施状況

学 習 内 容	平成18年度		平成19年度		平成20年度	
	回 数	参加者数	回 数	参加者数	回 数	参加者数
自然観察会	68	804	72	908	63	976
団体等観察会	35	915	39	446	29	405
計	103	1,719	111	1,354	92	1,381

(8) 環境アドバイザーの派遣

環境に関する専門家を環境アドバイザーとして任命し、県民や事業者の皆さんが自主的に実施する講演会や学習会、地域活動などに派遣しています。平成20年度には26名の方を環境アドバイザーとして任命し、合計61回派遣しました。（表2-4-4）

表2-4-4 平成20年度徳島県環境アドバイザー派遣状況

年月日	派遣場所	内容	参加人数
平成20年5月10日	海陽町海南文化館	緑のカーテン(ゴーヤー)で省エネ	50
平成20年5月15日	神山町農村環境改善センター	アドプト活動について	61
平成20年5月15日	吉野川河口干潟	干潟の観察	220
平成20年5月17日	徳島県立総合福祉センター	フードマイレージ	12
平成20年5月20日	吉野川河口干潟	干潟の観察	300
平成20年6月1日	海陽町役場海南庁舎	エコ生活	49
平成20年6月2日	美波町日和佐公民館	消費生活と環境	80
平成20年6月18日	佐那河内中学校	食と環境	10
平成20年6月19日	コープ自然派徳島会議室	ラムサール条約について等	14
平成20年6月22日	阿波市伊沢公民館	私たちにできること	21
平成20年6月22日	阿波市役所	水を中心とした環境問題	80
平成20年6月23日	佐那河内中学校	フードマイレージ	47
平成20年6月24日	鳴門中学校	地球環境について	43
平成20年6月25日	吉野川河口干潟	沖洲の自然に親しもう	97
平成20年6月25日	旧佐古診療所	消費生活と環境	14
平成20年6月29日	吉野川河口干潟	干潟の観察	33
平成20年7月2日	加茂名小学校	環境教育副読本活用授業研究会	60
平成20年7月2日	青少年交流プラザ	干潟の観察	29
平成20年7月3日	青少年交流プラザ	干潟の観察	53
平成20年7月6日	徳島県立総合福祉センター	できてますか?地球にやさしい暮らし方	42
平成20年7月6日	吉野川河口干潟	干潟の観察	13
平成20年7月17日	鳴門市板東公民館	食生活と環境	9
平成20年7月22日	徳島県立総合福祉センター	フードマイレージ	26
平成20年7月29日	吉野川河口干潟	干潟の観察	29
平成20年7月31日	立江川河川敷	カニの観察会	92
平成20年8月7日	阿南農協会館	夏休み自由研究(環境教室)	11
平成20年8月11日	藍住町女性センター	消費生活と環境	16
平成20年8月23日	とくしま生協コープ北島	フードマイレージ	24
平成20年8月24日	旧佐古診療所	消費生活と環境	12
平成20年8月26日	青少年交流プラザ	干潟の観察	12
平成20年8月30日	中林公民館	自転車で暮らせる町・徳島を目指して	39
平成20年9月8日	徳島県立大鳴門橋架橋記念館	ごみ問題や地球温暖化等の環境問題について	18
平成20年9月18日	三島会館	くらしの中の環境教室	10
平成20年9月20日	椿町船瀬海岸	ネイチャーゲーム	9
平成20年10月1日	勝浦川干潟	干潟の観察	30

平成 20 年 10 月 3 日	藍住町正法寺川公園	野鳥観察など	91
平成 20 年 10 月 6 日	内町公民館	マイバッグ持参とごみの減量化	40
平成 20 年 10 月 7 日	鷺敷中央公民館	マイバッグでお買い物	31
平成 20 年 10 月 16 日	鳴門市板東公民館	環境家計簿と省エネ	8
平成 20 年 10 月 17 日	吉野川河口	干潟ウォッチング	290
平成 20 年 10 月 24 日	鳴門市第二中学校	企業の取り組む環境問題について	11
平成 20 年 10 月 31 日	鳴門市第一小学校	環境問題学習	69
平成 20 年 11 月 6 日	新町川	徳島の川について	15
平成 20 年 11 月 6 日	佐那河内中学校	食と環境について考えよう(第2回)	16
平成 20 年 11 月 8 日	上浦公民館	カーボンオフセットプロジェクト	180
平成 20 年 11 月 12 日	神山町農村環境改善センター	アドプトプログラムについての体験談など	102
平成 20 年 11 月 24 日	つるぎ町農業改善センター	美しいふるさとづくり	25
平成 20 年 11 月 27 日	藍住町正法寺川公園	野鳥観察など	120
平成 20 年 11 月 28 日	山川中学校	フードマイレージ・ワークショップ	100
平成 20 年 12 月 12 日	城ノ内中学校	環境学習について色々な実験	7
平成 20 年 12 月 13 日	ポリテクセンター徳島	環境を守ることにについて	22
平成 21 年 1 月 16 日	美波町日和佐公民館	消費生活、食生活と環境	25
平成 21 年 1 月 27 日	さくら診療所	環境委員会勉強会	24
平成 21 年 1 月 28 日	立江川河川敷	野鳥の観察会	50
平成 21 年 1 月 28 日	津田中学校	MJ 環境「リサイクルについて」	31
平成 21 年 2 月 1 日	美波町日和佐公民館	環境問題への取り組み	158
平成 21 年 2 月 1 日	鷺敷中央公民館	花いっぱい運動と地球環境づくり	20
平成 21 年 2 月 23 日	四国電力(株)橘湾発電所	自然エネルギーと環境	40
平成 21 年 2 月 25 日	柿原幼稚園	幼稚園児向け環境学習会	29
平成 21 年 3 月 7 日	ふれあいセンター立江	暮らしの中から環境問題を考える	30
平成 21 年 3 月 8 日	モラスコむぎ	環境活動内容の紹介と動機について	50
計		61 回	3,249

(9) ピオトープアドバイザーの派遣

ピオトープの専門家をピオトープアドバイザーとして任命し、市町村・事業者及び各種団体等が開催するピオトープの保全・創出に関する学習会や説明会等に派遣し、ピオトープへの取り組みについての基本的な考え方を指導し、また地域の合意形成や具体的な企画立案等を効率的に進めています。平成20年度には16名の方をピオトープアドバイザーとして任命し、9回派遣しました。(派遣状況は第2部1章1節29ページ表2-1-5)

(10) とくしま環境科学機構管理運営事業

県と県内大学の参画により、平成18年3月に設立された「とくしま環境科学機構」の管理運営を行いました。「とくしま環境科学機構」では、環境に関する「調査研究」や「情報発信」のほか、環境に関わる人材や団体を養成するため、一般県民や環境学習指導者を対象とする「とくしま環境学講座」を開講しました。(表2-4-5)

表2-4-5 平成20年度とくしま環境学講座開催状況

年月日	講座名	参加者数
平成20年6月5日～7月24日	「地球温暖化問題の現状と対策を考える」	50名
平成20年8月25・26日	「第2回環境学習マイスター講座」	7名
平成20年11月11日	「地球温暖化問題と私たちの生活」	100名
平成21年3月25日	「日本型環境教育の知恵 人・自然・社会をつなぎ直す」	60名

2 環境月間・3R推進月間

環境への負荷の少ない持続的発展が可能な循環型社会の構築に向けて、国民一人ひとりの環境保全に係る意識の高揚を図るため、環境月間・3R推進月間に県民や事業者、各種民間団体の協力のもと、さまざまな行動を行いました。

(1) モデル的リスクコミュニケーションの開催

事業者による自主的なリスクコミュニケーションを推進するため、平成21年6月2日に県内の事業所において、地域住民、事業者、行政が参加し、モデル的リスクコミュニケーション（事業者と地域住民との意見交換会）が開催されました。会では、事業所見学、事業者による環境保全対策の説明の後、意見交換が行われました。

(2) ごみゼロの日キャンペーンの実施

環境美化に対する意識を高めるため、5月30日の「ごみゼロの日」に、「ごみゼロの日キャンペーン」を実施しました。関係機関や団体、事業所、学校に清掃活動を呼びかけ、環境美化意識の向上を図りました。

(3) 3R推進セミナーの実施

循環型社会の形成を推進するため、平成20年10月22日に徳島市内で「3R推進セミナー」を実施しました。環境カウンセラー中井八千代さんによる「レジ袋を断るだけでこんなにCO₂とプラスチックごみが減らせる」と題した講演などを行い、約130名の参加者がありました。

3 瀬戸内海環境保全月間

瀬戸内海の環境保全思想の普及、意識の高揚を図るため沿岸府県市において昭和48年度から毎年6月を環境保全月間と定め、講習会の開催、広報用印刷物の作成配布等各種普及活動事業を実施しています。

本県における、平成20年度瀬戸内海環境保全月間（6月1日～6月30日）の実施状況は次のとおりです。

(1) 啓発用ポスターの配布・掲示

瀬戸内海環境保全協会作成の環境保全啓発用ポスターを各種団体、事業場等に配布・掲示しました。

(2) 工場再点検

環境月間に合わせ、工場・事業場の立入検査を実施するとともに、瀬戸内海地域内の事業場、協定工場による排水処理施設の整備状況等について自主点検の実施を推進しました。

(3) 海辺の教室

瀬戸内海環境保全協会、徳島県漁業協同組合連合会、鳴門市、北灘漁業協同組合の協力を得て、北灘西小学校（鳴門市）の1～6年生16名を対象に海辺の教室を開催しました。

4 河川愛護思想の普及（水生生物による水質調査）

身近な河川の水質を知るとともに、河川の水質保全の必要性を認識してもらうこと及び水質環境の基礎的情報を得ることを目的として国土交通省では昭和59年度から、県では昭和60年度から、徳島市では昭和61年度から、小・中学生等一般市民の参加を得て水生生物による水質調査を実施しています。

平成20年度は、河川愛護月間（7月1日～7月31日）等において、国土交通省では県下の主要一級河川である吉野川・那賀川や穴吹川で、県では県下の小・中学生等へ呼びかけ勝浦川等32河川で調査が行われました。

表2-4-6 水生生物調査実施状況

区 分	年 度	河 川 数	地 点 数	参加団体数	参加人員
国 土 交 通 省	H11	2	4	15	214
	12	3	6	30	469
	13	3	6	28	587
	14	3	6	17	368
	15	3	6	17	306
	16	3	7	17	471
	17	3	4	11	304
	18	2	3	3	128
	19	3	8	10	223
	20	4	9	11	522
県	H11	46	143	49	1,274
	12	41	137	54	1,507
	13	38	128	69	1,716
	14	30	94	41	1,087
	15	27	73	32	935
	16	24	52	33	854
	17	19	39	30	895
	18	30	47	33	1,055
	19	28	48	30	664
	20	32	57	39	1,172

5 今後の取り組みの方向性

平成17年12月に策定した「徳島県環境学習推進方針～とくしま環境学びプラン～」に基づき、環境学習プログラムの普及や環境講座の開設などにより、環境学習を総合的・体系的かつ効果的にすすめるとともに、各主体の連携・協働を推進します。

また、環境アドバイザーやピオトープアドバイザーの派遣などにより、地域における環境活動を支援します。

さらに、こどもエコクラブ事業などにより、実践的な環境学習活動を推進します。